



『みつばちと少年』
村上 しいこ 著
講談社 47

クラスの中でうまくやっていたいけない雅也は、中1の夏休みを利用して、養蜂場を営むおじさんのいる北海道へ行くことに。寝泊りすることになった「北の太陽」では、さまざまな事情を抱えた子どもたちが暮らして…。

『秘密のノート』

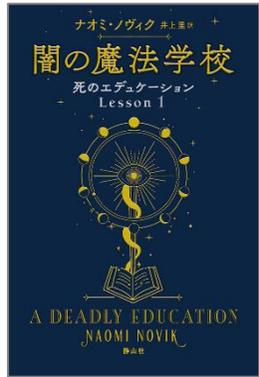
ジョー・コットリル 作
小学館 93㍷

モノマネが得意で、人を笑わせることが大好きな、クラスのお調子者ジェリー。だけど、彼女には大きな悩みがあり、心のさげびを「秘密のノート」に綴っていて…。悩める少女の、ちょっと切ないエンターテインメント。



『闇の魔法学校 Lesson1』
ナオミ・ノヴィク 著
静山社 93㍷ 1

虚空の闇に浮かぶ魔法使い養成学校<スコロマンス>。ここには教師がない。そのかわり怪物が襲ってくるから仲間が必要だ。ガラドリエルには、いまだ仲間は一人もいなかったが…。サバイバル・ファンタジー。見返しに図あり。



『赤い糸でむすばれた姉妹』

キャロル・アントワネット・ピーコック 作
フレーベル館 93㍷

国際養子縁組で渡米した少女ウェン。だが、中国に残した親友のことが心から離れなくて…。中国の伝説「赤い糸でむすばれた姉妹」である親友の養子縁組に奔走しつつ、家族の愛を求める少女の心の動きを細やかに綴る。



『春のウサギ』
ケヴィン・ヘンクス 作
小学館 93㍷

陶芸工房に通うアミーリアは、そこで出会ったケイシーと意気投合。小さいころに死に別れたお母さんと会いたいとケイシーに打ち明けると、ケイシーは「あそこにいる女性がお母さんと仮定してみようよ」と提案して…。



『神さまの貨物』

ジャン＝クロード・グランベール 著
ポプラ社 95㍷

大きな暗い森に貧しい木こりの夫婦が住んでいた。ある日、森を走りぬける貨物列車の小窓が開き、雪のうえに赤ちゃんが投げられた。明日の見えない世界で、大人たちは託された命を守ろうとし…。人間への信頼を呼び覚ます物語。



『アドリブ』

佐藤 まどか 著
あすなろ書房 ㍷

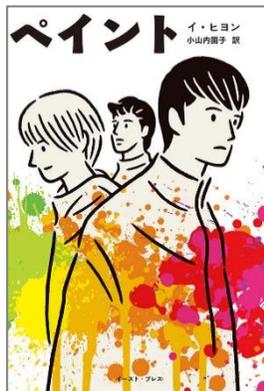
フルーツとの電撃的な出会いから5年。天性の才能を認められ、難関の国立音楽院に入学したユージだが、クラシック音楽界の厳しさを目の当たりにし…。イタリア、トスカーナの小さな町に暮らす少年の青春音楽小説。



『ペイント』

イ ヒョン 著
イースト・プレス 929.11

少子化が限界を越え、「人口絶壁」状態となった近未来。国は少子化対策として、親に代わって国が子どもを養育するセンターを設立し…。“子どもが親を選べるとしたら”という人類の究極のIFに挑んだティーン小説。



鶴ヶ島市立図書館 YA向けおすすめ本ブックリスト

felice ふえりーちえ

feliceとは、イタリア語で「幸せ」



202207 Vol.1

YA(ワイエー、ヤングアダルト)＝若いオトナ

YAとは、
子供と大人の間の世代を呼びます。
鶴ヶ島市立図書館では、
12歳から18歳くらいまでのみなさんを
対象にしています。

『法は君のためにある』

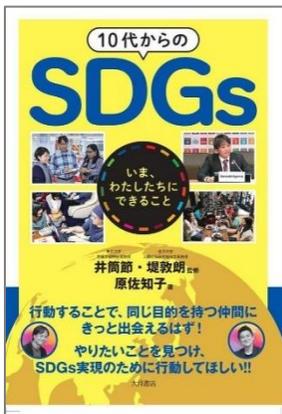
小貫 篤 著
筑摩書房 320円

電車の遅れは遅刻の言い訳にならない?ボールで自転車が壊れたらだれの責任?具体的な場面を取り上げ、法やルールの基本的な価値や考え方を解説する。筑波大学附属駒場中・高等学校の授業を書籍化。



『10代からのSDGs』
原 佐知子 著
大月書店 333.8円

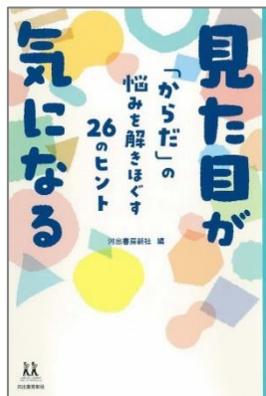
SDGsの本質とは「ひとにやさしい未来」づくり。やりたいことを見つけ、行動することで、同じ目的を持つ仲間ときっと出会える!若い世代の手がかりになるよう、SDGs目標達成に向けてのさまざまな取り組みを紹介。



『見た目が気になる』

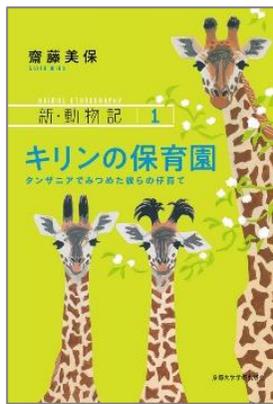
河出書房新社 編, 青木 美沙子ほか 著
河出書房新社 361円

人はどうして見た目が気になるのか。周囲や社会の価値観にとらわれず「自分らしさ」を見出すために、モデルや社会学者、漫画家など26人が「見た目」との向き合い方を考える。



『親を頼らないで生きるヒント』
コイケ ジュンコ 著
岩波書店 369円

虐待やヤングケアラー…。救ってくれる大人と出会うために、子どもはどのようにSOSを出せばよいのか。社会的養護のもとで育った若者9人の体験を紹介し、子どもが子どもらしく安心して暮らせる道を考察する。



『人類がもっと遠い宇宙へ行くためのロケット入門』
小泉 宏之 著
インプレス 538.9円

宇宙で何を?ロケットはどう飛ぶ?宇宙とロケットの「いろは」を綴った、人類が宇宙に進出するための入門書。現時点での宇宙開発の実力と、将来の宇宙開発の方向性を、イラストや写真を交えてわかりやすく解説する。

『キリンの保育園』

齋藤 美保 著
京都大学学術出版会 489.8円

動物たちに魅せられた若手研究者たちがその姿を追い求め、行動や社会、生態を明らかにしていくドキュメンタリー。ミオンボ林の片隅でみつめたキリンの親仔たちの物語を瑞々しく描き出す。



『打ち返す力』

水谷 隼 著
講談社 783.6円

技術はもちろん、心理戦、メンタルの要素が強くモノを言う卓球。東京オリンピック金メダリスト・水谷隼が、競技を通じて得た経験と卓球哲学を語り、仕事や学業、目の前の課題を「打ち返す力」を身につけるためのヒントを示す。



『屋根に上る』

かみや としこ 作
学研プラス が

自宅の屋根に寝転がるのが好きな皓。中学生になった年の夏のある日、祖父の弟子でもある大工の村田さんと、村田さんの元へ通う小学校の時の同級生、一樹と出会う。最初、皓は一樹が苦手だったが…。



『マイブラザー』

草野 たき 著
ポプラ社 79円

わんわんと大声で泣いて、ひっくり返って、足をばたつかせて、誰かを思いっきり困らせてみたい。14歳だって、5歳児みたいに…。イクメン中学生の、悩める日々とめざめを描いた書き下ろし成長小説。



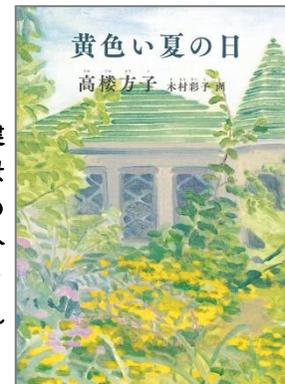
『ポーチとノート』
こまつ あやこ 著
講談社 79円

高校生の未来が机の引き出しにしまっている、その時感じた気持ちを綴った水色のノートと、まだ一度も使わなかったことがない生理用品の入ったポーチ。誰にも言えない体の悩みを抱えていた未来がある日恋に落ちて…。

『黄色い夏の日』

高樓 方子 著
福音館書店 79円

中学生になって入った美術部で、建物を描くという課題がだされた景介。主の老女に招き入れられ、古めかしい洋館に足を踏み入れた景介は、可憐な少女に出会う。ゆりあと名乗ったその少女に景介は心引かれていくのだが…。



『この空のずっとずっと向こう』

鳴海 風 作
ポプラ社 79円

1871年、日本初の女子留学生としてアメリカに渡った少女・そら。およそ150年前の実際のできごとをもとに、外国で学ぶことを夢見た少女の生き方を描く、心にすがすがしさと勇気をもたらす物語。

